



(桑名)

## 三重・志知南浦遺跡

所在地 三重県桑名市志知字十王堂ほか

調査期間 11001年(平14)七月～11002年1月

発掘機関 三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター

調査担当者 服部芳人

遺跡の種類 集落跡・寺院跡

遺跡の年代 繩文時代晚期～近世

遺跡及び木簡出土遺構の概要

志知南浦遺跡は、貝弁川右岸の自然堤防上に立地する。周辺に、十王堂などの寺院関連地名が残ることなどから、発掘調査区もしくは近くに寺院があつた可能性が高い。遺跡内からは、古代～中世にかけての墨書き器が計四八点出土している。

このうち古代のものは、「畠」「門」「弥市太」などがあり、中世には「僧」の墨書きがある山茶椀、「宗真」「仏」の墨書きがあ

る天目茶碗など、仏教関連の墨書きが見られる。

木簡は、溝SD六二から一点出土した。SD六一は、長さ一四・二m以上、幅四・八～五・八m、深さ〇・七一mを測る大溝で、五世紀～六世紀前葉の屋敷を区画する溝と思われる。同一遺構からは木簡の他、加工痕跡のあるウシの骨が出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「風空火水地カ」  
〔□□□□□〕  
(260+163)×(30)×3 061

(2) 「六道能化地藏菩薩カ」  
〔□□□□□□□〕  
(631)×(41)×3 061

9 関係文献

三重県埋蔵文化財センター『志知南浦遺跡発掘調査報告』(110〇八年)

(竹田憲治)

